

学校法人 **アジア学院**
アジア農村指導者養成専門学校

世界に通用する
リーダーシップ



農村開発科
2019年度 募集要項

〒329-2703
栃木県那須塩原市槻沢 442-1
Tel: 0287-36-3111 Fax: 0287-37-5833

Email: info@ari-edu.org
twitter: #ari now
facebook: 学校法人アジア
<http://www.ari-edu.org>

アジア学院の使命と目的

アジア学院の使命は、
イエス・キリストの愛に基づき、
個々人が自己の潜在能力を最大限に発揮できるような、
公正且つ平和で健全な環境を持つ
世界を構築することにあります。

この使命の実践に当たって、私たちは、
共に分かち合う生き方を目指して、
農村指導者の養成と訓練を行っています。
主としてアジア、アフリカ、
太平洋地域の農村共同体に生き、
働いている男女の指導者たちが、
毎年職員やアジア学院に集う他の人々と共に
学びの共同体を形成します。

この共同体に根ざした学びを通して、
私たちは農村の人々が地域で自分たちの持っている
資源や能力を共通の目的のために分かち合い、
活用する最善の方法を見出してゆくのです。

アジア学院は、
食べものとのちについての
独自のアプローチによって、
我々自身と全世界に問いかけを続けていきます。

アジア学院のモットー:

共に生きるために



アジア学院とは？

私たちは世界で最も虐げられた人々のために
働く草の根の「農村指導者」を養成します。

このユニークなリーダーシップ研修は毎年
栃木県のキャンパスで行われ、主にアジアと
アフリカからやって来た学生たちを対象に
しています。

公正かつ平和で健全な環境を持つ未来を実現
するために世界中の農民の持続可能な開発を
目的としております。私たちは自給自足を
強調するために、共同体で有機農業を
実践しています。

研修にどんな効果があるの？

アジア学院は約40年間のあいだで、
農民と共に暮らし働く1200人以上の
農村指導者にトレーニングを与えてきました。

卒業生は55カ国に、有機農業、農村開発、
保健、教育、災害援助、平和、少数民族など
のために働いています。アジア学院の研修を
通して農村指導者は健康的な食糧を自ら作る
能力を習得するだけでなく、人々に奉仕
するサーバントリーダーになります。



研修プログラム

アジア学院における農村指導者研修の目的は我々の「共に生きる」というモットーの真の意味を見いだすことにあります。それは、人、自然そして全ての生物は神さまによる創造物であり地球上で共に生きなければならないことをさしていますが、私たち、一人ひとりがそれがいかに困難であるか知っています。共生できないということは世界中に存在する多くの問題が原因となつてのことです。

農村指導者研修プログラムの中心は「フードライフ」の向上の考えに基づいています。飢餓を軽減するための単なる食料生産だけでなく、フードライフの豊かさを求めるということは、健康的な食料を生産しシェアすることをとおして明確になります。それは地域社会での共同作業を通して、環境にも地域社会にも持続性のある方法で行われます。それは地域における資源の最適有効利用の重要性を強調し活力に満ちて独立した共同体・村落の開発へと導きます。アジア学院は共同体全体の努力を通して、我々の食する食料の大半を生産します。

食料は神様、自然そして人類による協働の産物です。それゆえ、私たちは地球上の全ての生物を尊重するために、食料を分配することが根本であると考えます。それは共に生きる為に食料をシェアことです。

研修の キーコンセプト

アジア学院における我々の研修と生活はアジア学院農村指導者研修の3つの支柱から成り立っています。この概念の3つの支柱は「人に仕える指導者」「フードライフ」「地域共同体の開発」です。

人に仕える指導者

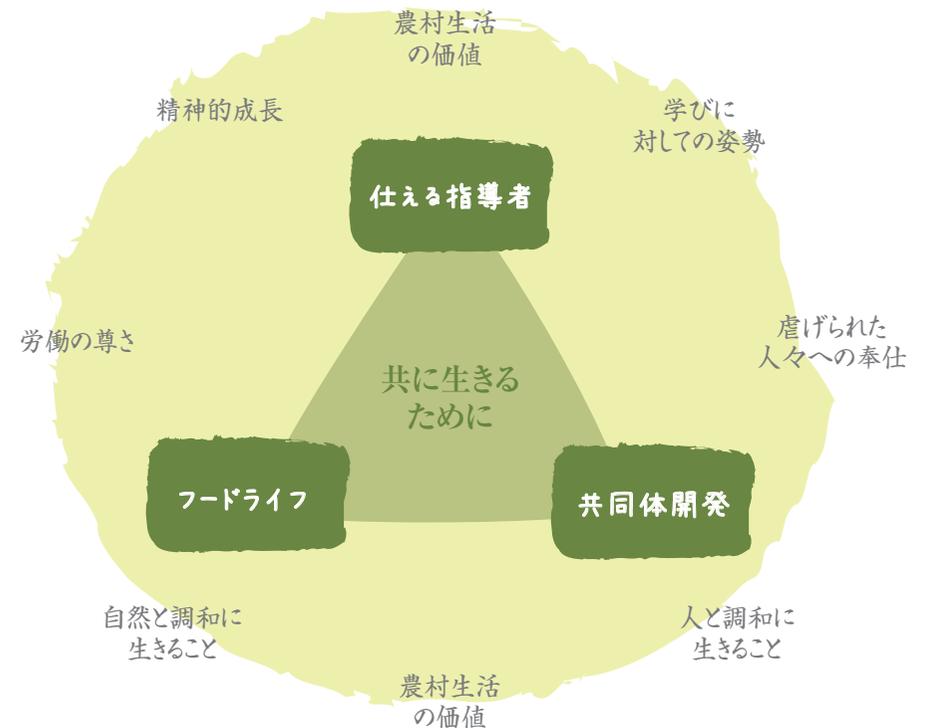
アジア学院では全ての学生が新しい経験や意見を通して自分自身について深く学び、「人に仕える指導者」になる真の意味を見いだすことのできる場所なのです。

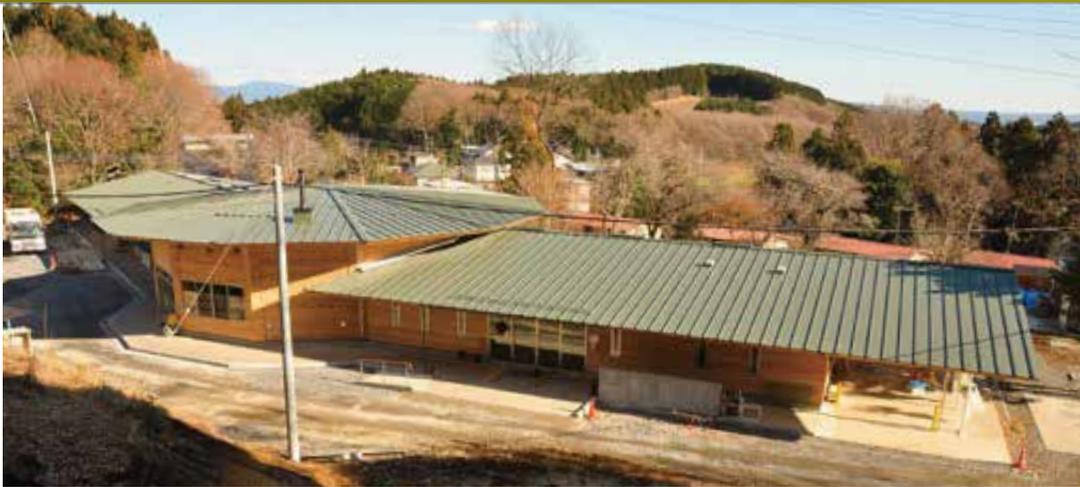
フードライフ

アジア学院独特の言葉で食料と生活は切り離せないという事を示す。

地域社会の開発

アジア学院は食料と生活の分かち合いを通して学べる場所です。私たちは様々な文化、民族そして信仰を持った人々が集い様々な問題と困難を通してともに生活し成長してゆきます。生活を共にすること、互いに学び合うことで影響力のある奉仕する指導者になるというゴールに向かって進みます。





カリキュラム

アジア学院は研修生一人ひとりが技術習得できるだけのみならず、研修生の自己の分析と成長を深いレベルで行える環境を作り上げようと試みています。

アジア学院研修のカリキュラムはアジア学院の使命である「共に生きる」という40年にわたる経験から造られてきた研修計画から成り立っています。それは教室による授業、朝夕のフードライフワークそして農場管理活動、フィールドスタディ、圃場での活動、リフレクション・ペーパーの作製、見学会、ホームステイ、自主学习、口頭での発表、相談と内省の日、コミュニティイベントの参加、コミュニティワーク、そのほか多くのイベント等から成り立っています。ともかく、コミュニティライフと活動の全てが研修にとって貴重な時間であり資源と考えます。

アジア学院が求める研修と政府が求める標準的事業時間を共にクリアさせるためにアジア学院では1760時間に及ぶ研修を供給しています。時間的な制限があるなかで研修は4月から12月までタイトに設定されています。ですから、すべての研修への参加と必要とされるレポートの提出は研修達成の成功には欠かせません。

主な研修教科

■ 通年の授業

指導者論（現代社会の「食と農」の分離を防ぎ、その尊厳を保ち、途上国の農民と共に現在と未来の環境を改善するために、自らリーダーとなる学習を、実践的セミナー形式で行う。）開発論（概論、世界経済とグローバル化、食糧問題と栄養、環境と開発、人権問題、平和問題、宗教と開発、女性と開発等）

■ その他の授業

持続可能な農業、参加型農村調査法、農村開発と共同体組織、小規模農村開発プロジェクト、適正技術と自然エネルギー

■ 実習及びプロジェクト

野菜作物、畜産、エコシステム・養魚・自然エネルギー、食品加工

■ 研修旅行

農村調査研修（夏学期・約1週間）、西日本研修旅行（秋学期・約2週間）

* これらの授業は2012年度の授業内容であり、2014年度については変更する場合があります。

* 研修は原則として英語で行われます。必要と判断された場合、入学前のオリエンテーション期間に約2週間、英語の集中授業があります。

本校の特色

- キリスト教信仰から生み出される諸価値を尊重し、学院内で共同体造りをしながら、一人ひとりが成長することを目指す。
- アジア・アフリカ・大洋州・中南米諸国からの学生達との生活を通して、発展途上国の生活感覚を養い、多様な人々と「共に生きる」ことを学ぶ。
- 英語を学院の共通語として、日本、韓国、フィリピン、ガーナ、アメリカ、ドイツ等出身のスタッフ陣とともに講義、実習、作業に参加する。
- 発展途上国や日本の農村で活動できる実行力と柔軟性のあるリーダーを養成する。
- 全寮制による共同生活を通して、学習は講義のみならず生活実践の中でも行う。



応募資格

【応募資格】 将来アジア、アフリカ、大洋州、中南米および日本の農村地域社会の向上に奉仕することに関心のある者。(原則20歳以上)

農業体験は絶対条件ではありません。

【英語能力】 アジア学院の共通語は英語であるため、すべての課業は英語で行われます。しかし、英語能力は絶対条件ではありません。

【募集人数】 5名

【研修期間】 2019年4月1日より約1年。海外研修(2020年1月、2月の約50日間)の期間を含む。

応募要領

【1】 提出書類 下記書類および入学検定料 10,000 円(郵便為替)を郵送にてお送り下さい。

- 入学願書(和文3枚、英文2枚)
- 住民票
- 最終出身校の卒業証明書又は卒業見込書
- 成績証明書
- 推薦書1通(書式無し)
- 健康診断書(書式無し・保健所等で行っている最も簡単なもので結構です)
- 和文によるアジア学院入学の志望動機(和文;2000字程度)
- 和文によるアジア学院卒業後の希望進路(和文;1000字程度)
- A4版紙1ページ程度の英文の作文(各自テーマは自由)
- 写真2枚(うち1枚は願書に添付)

【2】 面接

書類選考の後、面接を行います。面接の日程は書類選考に合格した方に直接お知らせいたします。また面接の際、英語による面接(10分程度)があります。

【3】 入学願書受付

願書×切は第一次、第二次共、受付最終日)
第1次受付:2018年10月1日-12月1日
第2次受付:2019年1月1日-3月17日

【4】 合格発表

第1次合格者発表 2018年12月3日
第2次合格者発表 2019年3月24日

* 入学願書を出される前に、是非一度、見学或いは体験入学されることをお勧めいたします。

学生納付金

学生納付金 (変更の可能性があります)

入学検定料	10,000 円
入学金	80,000 円

【国内研修-9ヶ月間】

授業料	700,000 円
実験実習費	260,000 円
寮費	270,000 円 (3万円/月×9ヶ月)
食費	270,000 円 (3万円/月×9ヶ月) ※月ごとの分割納入可

合計 1,590,000 円

【アジア・インターンシップ・プログラム-50日間】

海外渡航費	120,000 円 (変更の可能性あり)
プログラム費	120,000 円
宿泊・食費	50,000 円

合計 290,000 円

納付金合計 1,880,000 円



納入方法

入学金納入期限【各次合格発表後7日以内】 納入額: 90,000 円

前期納入期限【2019年4月1日】 納入額: 750,000 円

後期納入期限【2019年10月3日】 納入額: 750,000 円

インターンシップ費用の納入方法は、卒業時にお知らせします。

アジア インターンシップ・プログラム

将来の発展途上国での活動につながる、より実践的な経験を習得するために、アジア学院卒業生の団体にて約50日間(1月、2月)の海外インターンシップ・プログラムを行う。日本人学生各自がインドネシア、フィリピン、マレーシア、インド等のNGOから興味や将来の目標に応じたインターン先を選び、プログラムを行う。



日本人学生はアジア学院での研修後、 日本国内また世界各地で活躍しています。



九九年卒業生
カンボジアにて
山崎陽子

日本人卒業生の活動例

- 卒業後、アジア学院にてGI(研究科生)、その後コスタリカにて青年海外協力隊の野菜隊員(05年卒)
- 青年海外協力隊(JOCV)研修、パラグアイにて野菜隊員(02年卒)
- 卒業後アジア学院にてGI(研究科生)、その後NGO「ペシャワールの会」に参加しアフガニスタンで活動。現在、帰国し林業に従事。(02卒)
- インド・アラハバード大学就職、現地で活動後、フィリピンの大学院に留学。(02年卒)
- NGO「地球の木」参加、2005年より日本国際飢餓対策機構(JIFH)ウガンダへ派遣駐在員(02年卒)
- 青年海外協力隊(JOCV)ニカラグア隊員、その後NGO「地球と共に歩む会」インドネシアにて活動。現在、在インドネシア・日本大使館勤務(99年卒)
- 青年海外協力隊(JOCV)ホンジュラス隊員、その後山形カンボジア(IVY)駐在員現地農業マネージャー(99年卒)
- 国際ボランティアセンター山形(IVY)カンボジア隊員、その後日本国際ボランティアセンター(JVC)カンボジア駐在員(98年卒)
- 国連(FAO)東部アフリカ準地域事務所ポリシー・オフィサー(97年卒)



学生生活案内

【全寮制】 アジア、アフリカ、大洋州、中南米各国から派遣されてきている学生と生活を共にすることを基本にし、4月から12月まで寮生活をします。男子寮・女子寮とも二人部屋。手洗・シャワー室は共同です。ベッド、寝具、洗濯機、アイロンなどは備えられています。

【学院の共同体生活】 寮員の共同生活は、日本を含むアジア、アフリカ、太平洋、中南米の学生及び職員、ボランティアで構成されています。特に学院では毎年10人前後のボランティアを受け入れ、家畜や農作物の世話から事務に至るまでを担ってもらっています。彼らは学生と同じ寮に住み、食事と一緒に暮らします。アジア学院での勉強は、このような多様な人々との共同生活を基盤としています。

【休日】 11ヶ月間(4月～2月)で一年分の課業を終えるような年間のカリキュラムが組まれているので、夏休みはありません。また、日曜・国民の祝日は休日ですが、第1、第3土曜は半日課業があります。従って、11ヶ月間は特別な事情がない限り帰郷する余裕がありません。

【食事】 毎食、学院の食堂で共同の食事をします。食事作り(昼食を除く)、後片づけも当番制で学生とボランティア・職員が担当します。学院で生産される食材を基本にしており、多様な食文化の人々に合わせようとしていますので、通常の「和食」は提供できません。毎日曜日の昼食各自でアレンジすることになります。

【日課】 朝6時半のラジオ体操で学生・ボランティア・職員全員の日課が始まります。午後6時に夕方の作業が終わり、夕食で一日が終わります。その後は原則的に自由です。但し、当番制で、午後9時30分に夜のキャンパスの見回りをします。

【宗教】 アジア学院はキリスト教を基盤としています。従って、アジア・アフリカ等の教会、キリスト教団体から派遣されてくる学生が7割くらいになります。しかし、それ以外にイスラーム教、ヒンズー教、仏教の学生もいます。「朝の集会」では聖書が読まれたり、祈りが捧げられますが、互いの信仰を尊重することが大切だと考えています。

【アルバイト】 学期中はアルバイトはできません。共同生活が続き、休日も少ないので、時間の余裕がありません。それとともに、アジア・アフリカの人々にとって、モノ・カネの豊かさは常に大きな誘惑です。貧しい農村の人々と共に生きることを目指していますので、質素な生活にみんなで努めることを大切に考えています。

【英語】 学院は多言語共同体です。職員も日本人ばかりではなく6カ国の国籍の人たちがいます。学生・ボランティアを含めると20カ国を超える国籍の人々が集います。従って、英語を授業や日常の言語としています。職員も学生も、全員が英語の達人であるわけではありませんが、英語の能力は絶対に必要です。入学後、必要であれば日本人学生のために特別な英語学習コースを設けますが、今から、英会話の勉強を始めることを強くお勧めします。英語ができて困ることはありません。

【学院の位置】 東北本線(宇都宮線)西那須野駅から約4kmに位置しています。スーパーマーケット、コンビニエンスストアまで約2kmです。学院で、は各学生に自転車一台をお貸しします。学生の自家用車の持ち込みは禁止です。

